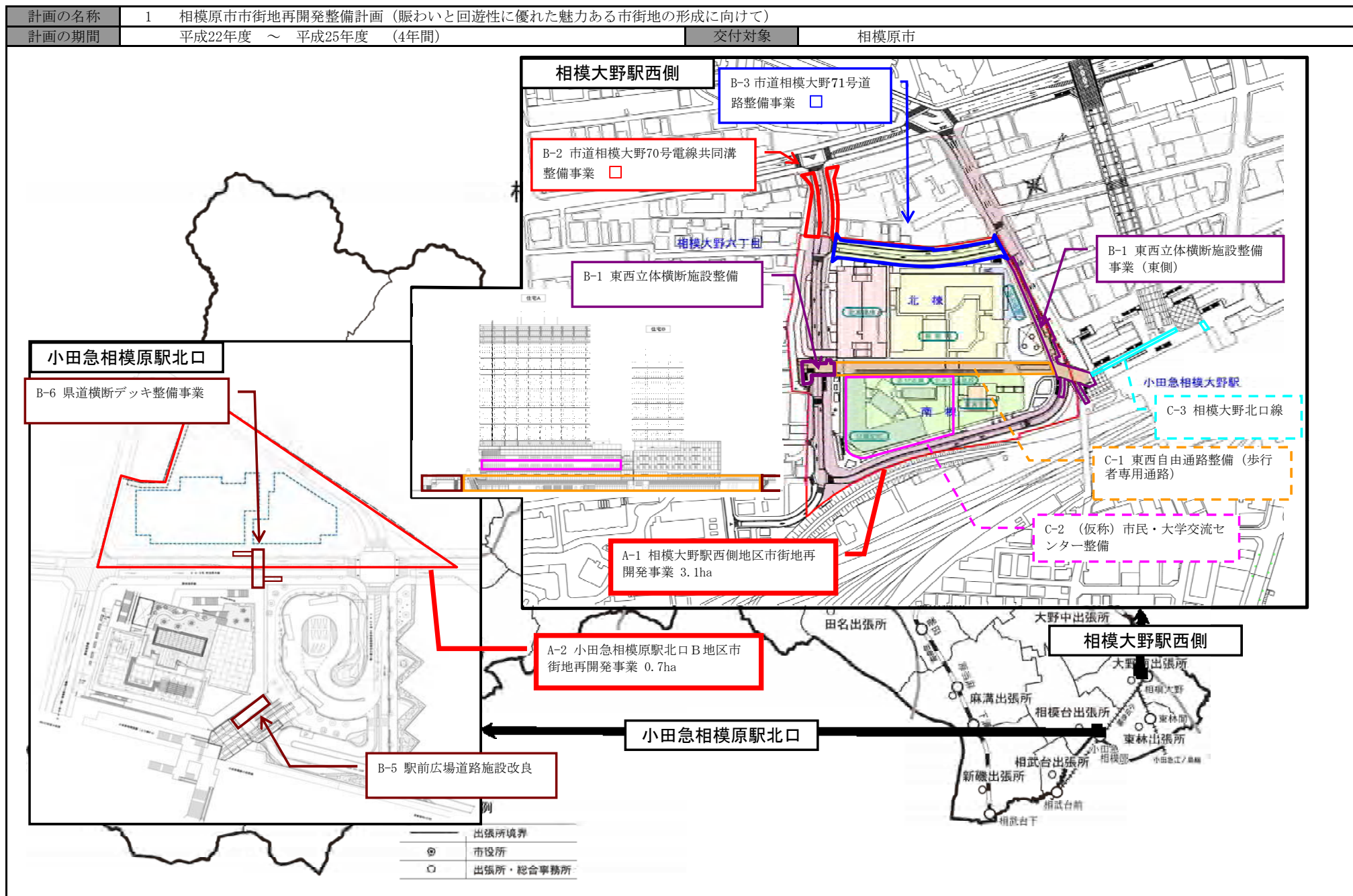


社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成24年3月19日

計画の名称	1 相模原市市街地再開発整備計画（賑わいと回遊性に優れた魅力ある市街地の形成に向けて）																												
計画の期間	平成22年度～平成25年度（4年間）				交付対象		相模原市																						
計画の目標	相模大野駅西側地区及び小田急相模原駅北口B地区は、建物の老朽化や狭幅員道路等都市防災上の課題に加え、空きビルや大規模な空き地が目立っていました。このような中、再開発事業を中心に道路等の都市基盤整備、建築物の共同化や不燃化などによる都市機能の更新、安全で快適な歩行者空間の確保や大学などと連携した市民の文化・交流の拠点となる公共施設の整備を行い、賑わいと魅力ある市街地の形成を目指します。																												
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅乗降客数を174,632人／日（H22）から179,912人／日（H25）に増加 ・ 駅周辺の来街者数を104,867人／日（H22）から107,402人／日（H25）に増加 																												
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H22当初)</th> <th>中間目標値</th> <th>最終目標値 (H25末)</th> </tr> <tr> <td colspan="2">「相模大野駅」及び「小田急相模原駅」における1日における平均乗降客数を測定する。（当初現況値H21年度データ）</td> <td>174,632人／日</td> <td>—</td> <td>179,912人／日</td> </tr> <tr> <td colspan="2">通行量調査により来街する人数を測定する。（当初現況値H19年度データ）</td> <td>104,867人／日</td> <td>—</td> <td>107,402人／日</td> </tr> </table>													定量的指標の現況値及び目標値			当初現況値 (H22当初)	中間目標値	最終目標値 (H25末)	「相模大野駅」及び「小田急相模原駅」における1日における平均乗降客数を測定する。（当初現況値H21年度データ）		174,632人／日	—	179,912人／日	通行量調査により来街する人数を測定する。（当初現況値H19年度データ）		104,867人／日	—	107,402人／日
		定量的指標の現況値及び目標値																											
		当初現況値 (H22当初)	中間目標値	最終目標値 (H25末)																									
「相模大野駅」及び「小田急相模原駅」における1日における平均乗降客数を測定する。（当初現況値H21年度データ）		174,632人／日	—	179,912人／日																									
通行量調査により来街する人数を測定する。（当初現況値H19年度データ）		104,867人／日	—	107,402人／日																									
全体事業費	合計 (A+B+C)	10,501.0百万円	A	7,561.9百万円	B	1,599.2百万円	C	1,339.9百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	12.76%																			
交付対象事業																													
A1 基幹事業																													
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考															
									H22	H23	H24	H25																	
1-A-1	再開発	一般	相模原市	間接	相模大野駅西側地区市街地再開発組合	相模大野駅西側地区市街地再開発事業	商業、公益施設、住宅等 3.1ha	相模原市					5,639.8																
1-A-2	再開発	一般	相模原市	間接	小田急相模原駅北口B地区市街地再開発組合	小田急相模原駅北口B地区市街地再開発事業	商業、住宅等 0.7ha	相模原市					1,922.1																
											合計	7,561.9																	
B 関連社会資本整備事業																													
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考															
									H22	H23	H24	H25																	
1-B-1	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	東西立体横断施設整備事業	立体横断施設 L=160m	相模原市					915.7																
1-B-2	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	市道相模大野70号電線共同溝整備事業	電線共同溝 L=110m	相模原市					36.3																
1-B-3	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	市道相模大野71号道路整備事業	道路新設 L=130m	相模原市					71.2																
1-B-5	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	駅前広場道路施設改良整備事業	上屋整備 L=20m	相模原市					70.0																
1-B-6	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	県道町田厚木横断デッキ整備事業	立体横断施設 L=20m	相模原市					506.0																
											合計	1,599.2																	
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考																	
1-B-1	市街地再開発事業（A-1）と一体的に立体横断施設整備をすることにより、利用者の利便性の確保や地域経済・社会の活性化を図る。																												
1-B-2	市街地再開発事業（A-1）と一体的に電線共同溝整備をすることにより、利用者の利便性と安全性の確保を図り、魅力ある街並みを形成する。																												
1-B-3	市街地再開発事業（A-1）と一体的に道路新設することにより、交通の安全性の向上を図り、快適で安全な魅力ある市街地の形成を図る。																												
1-B-5	市街地再開発事業（A-2）と一体的に上屋の整備を行い、利用者の利便性と安全性の確保を図り、魅力ある街並みを形成する。																												
1-B-6	市街地再開発事業（A-2）と一体的に立体横断施設整備をすることにより、利用者の利便性の確保や地域経済・社会の活性化を図る。																												
C 効果促進事業																													
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考															
									H22	H23	H24	H25																	
1-C-1	施設整備	一般	相模原市	直接	相模原市	東西自由通路整備	歩行者専用通路 L=160m	相模原市					800.6																
1-C-2	施設整備	一般	相模原市	直接	相模原市	(仮称)市民・大学交流センター整備	3,000㎡	相模原市					441.7																
1-C-3	施設整備	一般	相模原市	直接	相模原市	相模大野北口線の上屋整備	上屋整備 L=100m	相模原市					97.6																
											合計	1,339.9																	
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考																	
1-C-1	市街地再開発事業（A-1）及び街路事業（B-1）を補完する効果促進事業として、東西自由通路整備を行い、利用者の利便性の確保や地域経済・社会の活性化を図る。																												
1-C-2	市街地再開発事業（A-1）を補完する効果促進事業として、文化・交流の拠点となる（仮称）市民・大学交流センターの整備を行うことにより来街者の増加が期待され、地域経済・社会の活性化を図る。																												
1-C-3	市街地再開発事業（A-1）を補完する効果促進事業として、上屋整備を行い、利用者の利便性と安全性の確保や地域経済・社会の活性化を図る。																												
その他関連する事業																													
事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考																
								H22	H23	H24	H25																		
1-B-4	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	市道相模大野70号ほか歩道カラー舗装整備	歩道整備 L=150m	相模原市					10.4																

(参考図面) 市街地整備



社会資本総合整備計画（市街地整備分野）事前評価チェックシート

地方整備局名 関東地方整備局 都道府県名 神奈川県

市町村名 相模原市 計画名 相模原市市街地再開発整備計画

I. 目標の妥当性

チェック欄

①上位計画等との適合等	
1) 上位計画等と整合性が確保されている。 (該当するものに○) ①.市町村総合計画 2.都道府県長期計画 3.都市再生緊急整備地域 4.構造改革特別区域 5.地域再生計画 6.全国都市再生モデル調査 7.被災市街地 8.中心市街地活性化計画 9.その他	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標を設定している。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置付けが高い。	○

II. 計画の効果・効率性

③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○

III. 計画の実現可能性

⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○

社会資本総合整備計画 事後評価

「相模原市市街地再開発整備計画
（賑わいと回遊性に優れた
魅力ある市街地の形成に向けて）」

平成26年11月

神奈川県相模原市

社会資本総合整備計画（賑わいと回遊性に優れた魅力ある市街地の形成に向けて） 事後評価書

平成26年 11月10日

計画の名称	1 相模原市市街地再開発整備計画（賑わいと回遊性に優れた魅力ある市街地の形成に向けて）														
計画の期間	平成22年度～平成25年度（4年間）					交付対象					相模原市				
計画の目標	相模大野駅西側地区及び小田急相模原駅北口B地区は、建物の老朽化や狭幅員道路等都市防災上の課題に加え、空きビルや大規模な空き地が目立っていました。このような中、再開発事業を中心に道路等の都市基盤整備、建築物の共同化や不燃化などによる都市機能の更新、安全で快適な歩行者空間の確保や大学などと連携した市民の文化・交流の拠点となる公共施設の整備を行い、賑わいと魅力ある市街地の形成を目指します。														
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅乗降客数を174,632人/日（H22）から179,912人/日（H25）に増加 ・ 駅周辺の来街者数を104,867人/日（H22）から107,402人/日（H25）に増加 														
定量的指標の定義及び算定式											定量的指標の現況値及び目標値			備考	
											当初現況値 (H22当初)	中間目標値	最終目標値 (H25末)		
① 「相模大野駅」及び「小田急相模原駅」における1日における平均乗降客数を測定する。（当初現況値H21年度データ）											174,632人/日	-	179,912人/日		
② 通行量調査により来街する人数を測定する。（当初現況値H19年度データ）											104,867人/日	-	107,402人/日		
全体事業費	合計 (A+B+C)	7,282.4百万円	A	4,939.3百万円	B	1,244.5百万円	C	1,098.6百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)			15.09%			

事後評価（中間評価）

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
① 駅乗降客数により算出。（小田急電鉄ホームページによる）	平成26年度
② 通行量調査により算出。（相模原市実施）	公表の方法
	相模原市ホームページにて公開

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	進捗状況	備考
									H22	H23	H24	H25			
1-A-1	再開発	一般	相模原市	間接	相模大野駅西側地区市街地再開発組合	相模大野駅西側地区市街地再開発事業	商業、公益施設、住宅等 3.1ha	相模原市					5,781.9	完了	
1-A-2	再開発	一般	相模原市	間接	小田急相模原駅北口B地区市街地再開発組合	小田急相模原駅北口B地区市街地再開発事業	商業、住宅等 0.7ha	相模原市					1,926.8	完了	
合計												7,708.7			
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	進捗状況	備考
									H22	H23	H24	H25			
1-B-1	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	東西立体横断施設整備事業	立体横断施設 L=160m	相模原市					886.1	完了	
1-B-2	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	市道相模大野70号電線共同溝整備事業	電線共同溝 L=110m	相模原市					36.3	完了	
1-B-3	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	市道相模大野71号道路整備事業	道路新設 L=130m	相模原市					53.2	完了	
1-B-5	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	駅前広場道路施設改良整備事業	上屋整備 L=20m	相模原市					33.9	完了	
1-B-6	道路	一般	相模原市	直接	相模原市	県道町田厚木横断デッキ整備事業	立体横断施設 L=20m	相模原市					235.0	完了	
合計												1,244.5			

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-B-1	市街地再開発事業(A-1)と一体的に立体横断施設整備をすることにより、利用者の利便性の確保や地域経済・社会の活性化を図る。	
1-B-2	市街地再開発事業(A-1)と一体的に電線共同溝整備をすることにより、利用者の利便性と安全性の確保を図り、魅力ある街並みを形成する。	
1-B-3	市街地再開発事業(A-1)と一体的に道路新設をすることにより、交通の安全性の向上を図り、快適で安全な魅力ある市街地を形成を図る。	
1-B-5	市街地再開発事業(A-2)と一体的に上屋の整備を行い、利用者の利便性と安全性の確保を図り、魅力ある街並みを形成する。	
1-B-6	市街地再開発事業(A-2)と一体的に立体横断施設整備をすることにより、利用者の利便性の確保や地域経済・社会の活性化を図る。	

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)				全体事業費 (百万円)	進捗状況	備考
									H22	H23	H24	H25			
1-C-1	施設整備	一般	相模原市	直接	相模原市	東西自由通路整備	歩行者専用通路 L=160m	相模原市					662.1	完了	
1-C-2	施設整備	一般	相模原市	直接	相模原市	(仮称) 市民・大学交流センター整備	3,000㎡	相模原市					429.4	完了	
1-C-3	施設整備	一般	相模原市	直接	相模原市	相模大野北口線上屋整備	上屋整備 L=100m	相模原市					2.5	完了	
合計												1,094.0			

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-C-1	市街地再開発事業(A-1)及び街路事業(B-1)を補完する効果促進事業として、東西自由通路整備を行い、利用者の利便性の確保や地域経済・社会の活性化を図る。	
1-C-2	市街地再開発事業(A-1)を補完する効果促進事業として、文化・交流の拠点となる(仮称)市民・大学交流センターの整備を行うことにより来街者の増加が期待され、地域経済・社会の活性化を図る。	
1-C-3	市街地再開発事業(A-1)を補完する効果促進事業として、上屋整備を行い、利用者の利便性と安全性の確保や地域経済・社会の活性化を図る。	

その他関連する事業															
事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)				全体事業費 (百万円)	進捗状況	備考	
								H22	H23	H24	H25				
1-B-4	道路	一般	—	—	相模原市	市道相模大野70号他歩道カラー舗装整備	歩道整備 L=150m	相模原市					0	未実施	(市単独事業として実施)

*交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

- ・施設建築物の建設(商業施設や公共施設等)により、まさに新たな魅力が生まれたことから、駅の乗降客数や来街者が増加した。
- ・東西立体横断施設(B-1)の整備により相模大野駅前既存デッキ(サンデッキ)と施設建築物が2階レベルで直結したことから、歩行者の利便性や安全性が確保され、また既存商業施設との回遊性が向上したことにより来街者が増加(駅乗降客数を含む)した。
- ・東西自由通路(C-1)等で、賑わいの創出に貢献する事業(イベント等)を積極的に実施し、来街者の増加に貢献した。
- ・(仮称)市民・大学交流センター(C-2・正式名称も同名)については、平成25年度の利用率が44%、利用者数152,133人の実績となっており、来街者増加の一因となった。
- ・市街地再開発事業(A-2)と一体的に整備した県道横断デッキ(B-6)により2階レベルで小田急相模原駅と直結し、併せて駅前広場道路施設改良整備事業(B-5)で設置した上屋により、歩行者の利便性や安全性が確保され、魅力ある街並みの形成が図られた。

II 定量的指標の達成状況	指標①(乗降客数)	最終目標値	179,912人/日	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・再開発事業で建設した施設建築物の商業施設等が、想定以上にまちの新たな魅力となったため。 ・同時に整備した立体横断施設(B-1)や自由通路(C-1)、県道横断デッキ(B-6)によって駅と施設建築物が直結し、利用者の利便性や安全性が確保され、併せて既存の周辺商業施設等との回遊性が向上したため。 ・再開発事業により整備した施設(東西自由通路等)で、賑わいの創出に貢献する事業(イベント等)を積極的に実施したため。
		最終実績値	184,773人/日		
	指標②(来街者人数)	最終目標値	107,402人/日		
		最終実績値	126,800人/日		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)

- ・公共施設(道路等)の整備や建物の不燃化等により、都市基盤の整備が進み、併せて防災性が向上した。
- ・駅からの歩行者の動線として、東西立体横断施設(B-1)や県道町田厚木横断デッキ(B-6)を整備したことにより、利用者の利便性や安全性が向上した。
- ・市道相模大野70号電線共同溝(B-2)の整備により歩道空間が広がったことから、歩行者の利便性や安全性が向上した。

3. 特記事項(今後の方針等)

社会資本総合整備計画において定めた事業は全て完了したが、整備した社会資本を最大限に活用し、来街者の増加やまちの回遊性をさらに高めるため、ソフト的な施策について、今後、地域と連携しながら継続的に実施していく。

(参考図面)

社会資本総合整備計画（賑わいと回遊性に優れた魅力ある市街地の形成に向けて）

